NO.D94-9

KITZ

建設大臣認定品
建設省千住指発 第57号
※建築基準法旧第38条に
基づく建設大臣認定

排水用通気弁 通気番

(製品記号AAV)
取扱説明書

この度は、キッツ排水用通気弁「通気番」をご購入いただきありがとうございます。本製品を、長期間正しくご使用いただくために、施工前に必ずこの『取扱説明書』を最後までお読みください。

安全上のご注意

本製品は、当社の品質保証マニュアルに基づいた保証体制により製作し、お届けしております。さらに、本製品をより安全にご活用いただくために、必ず安全上の注意事項を最後までお読みの上、正しく施工してください。

ここに示した注意事項は、本製品の取扱いを明確にし、使用に際しての人的危害や物的損害を未然に防止するためのものです。いずれも本製品を正しく施工する上で重要な内容ですので必ず守ってください。

⚠注意 この表示を無視し誤った取扱いをすると、使用者が軽傷を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示しています。

1 取扱い上の注意

本製品を施工する際は、以下の注意事項を厳守してください。注意事項を守らず発生した事故・製品の機能不良については、当社はその責任を負いかねます。

⚠注意	
禁止	●配管工事終了後、排水管の満水試験を行う場合は、試験前に「通気番」の取付けはしないでください。取付けて満水試験を行うと「通気番」に過大な圧力が働き、性能が低下する恐れがあります。「通気番」の取付けは、満水試験後に行ってください。 ●「通気番」を取付ける通気管を横走りさせる場合は、逆勾配にならないよう注意してください。逆勾配では水が通気管に溜まり、通気機能を損なう恐れがあります。 ●正圧緩和を目的とした通気管（逃がし通気管）には設置しないでください。「通気番」は吐出し機能がないので、排水管内の正圧を緩和することはできません。
指示	●「通気番」は、ごみや埃が付かないような場所に保管するようにしてください。ゴム部品などに異物が付着すると、異臭が室内に漏れる恐れがあります。 ●設置場所の空気流入口（通気口）は、通気管断面積の2倍以上を確保してください。排水管内に充分な空気量を供給できなくなり、トラップが機能せず異臭が室内に漏れる恐れがあります。 ●「通気番」は、必ず垂直に取り付けて下さい。垂直以外の向きに設置すると弁体が正常に作動しません。 ●接着剤を塗布するときは、塩ビ管継手側に塗布して下さい。やむを得ず「通気番」に塗布する場合は、垂直に立てて接着剤が内部に流入しないようにしてください。逆さなどで塗布して接着剤が内部に流入すると弁体が正常に作動しません。 ●「通気番」の内部部品は、軽量化のため破損しやすく、またゴム部品には異物が付着しないよう、メンテナンスの際の取扱いには十分に注意してください。

2 製品概要および特徴

「通気番」は、通気管末端部を屋内で処理できるように、排水管内の圧力が大気と同圧時及び正圧時には管内臭気を遮断し、排水によって負圧が生じたときには空気を取込む機構を有した排水用通気弁です。「通気番」の特徴は次のとおりです。

■勾配がついた収集溝と直下型ドレンによって、内部に発生する結露水等を効率よく逃がすので、通常の使用では保温材が要りません。

■キャップが取り外せるので、内部の点検・洗浄・部品交換が可能です。

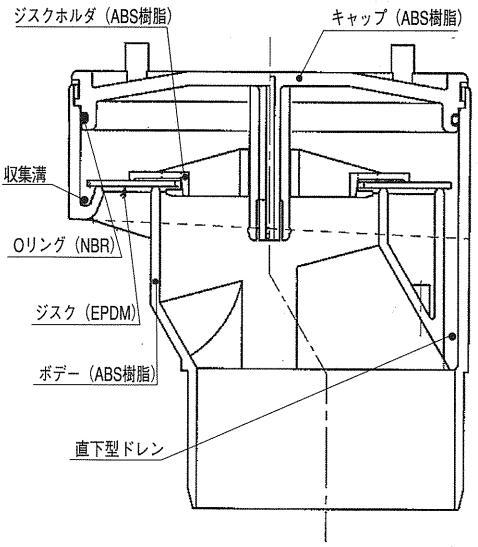

図1「通気番」の構造

3 製品構造

「通気番」は、図1に示すような構造及び部品構成になっています。

4 施工方法

【工　具】

◇スケール
◇ウエス
◇塩ビ管用接着剤
◇刷毛:接着剤の塗布に使用

【施工前の確認】

■「通気番」のサイズと通気管径

「通気番」は、接続する通気管と同サイズのものをご使用ください。
また、その通気管は以下の原則にしたがって管径を決定してください。
◇排水立て管に接続する伸頂通気管の管径は、排水立て管の管径と同サイズとします。
◇排水横枝管に接続する通気管の管径は、排水横枝管の管径の1/2以上とします。

■製品のチェック

1）キャップがボデーに正しく取付けられていることを確認します。
◇図2に示すように、キャップ前面の『▽』マークが、ボデー前面の『｜』マークの位置にあるか確認してください。

2）図3を参考に、弁体（ジスク）がなめらかに動くことを確認してください。
◇製品を逆さにし、細い棒などでゴムの面を軽く押して弁体が落ちることを確認します。
◇その状態で、製品を垂直に立てた時に、弁体が下に落ちることを確認します。

3）上記のチェックで異常が認められた場合は、お手数ですが、購入先へ連絡して商品を交換してください。

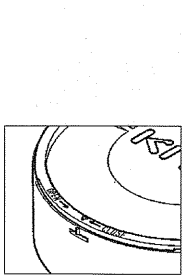

図2

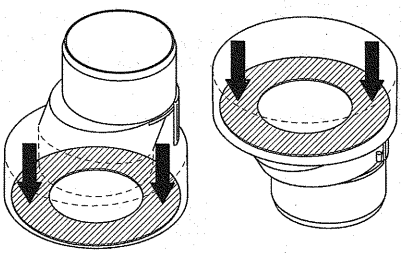

図3

【取付け方法】

■取付け場所

1）「通気番」は、空気の流入がスムーズな場所に設置してください。密閉度が高く、容積の小さなパイプシャフトなどに設置せざるをえない場合は、通気管断面積に対して2倍以上の空気流入口（通気口）を設けてください。（図4）

2）天井裏やパイプシャフトなどの隠蔽（いんぺい）部に設置する場合は必ず点検口を近くに設けてください。（図4）

3）寝室・リビングルーム等に隣接する屋内のパイプシャフトに設置する場合は、流水音等に対して、設置高さの調整や防音対策について配慮してください。

4）「通気番」設置場所の温度が氷点下の場合は、当社指定の保温材（オプション）を取付けてください。（図5）

5）「通気番」は原則として屋内設置用です。やむを得ず屋外に設置する場合は、別途「屋外用通気番」をご選定ください。
なお、「通気番（屋内用）」に屋外用カバーを後付けし、「屋外用通気番」として使用することはできません。

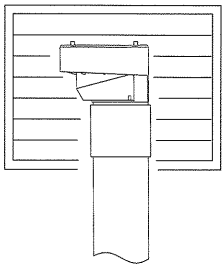

図4 通気口付点検口の例

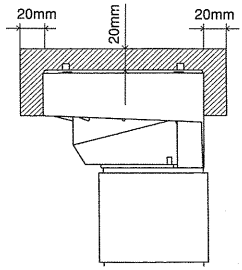

図5

■取付け方法

1）「通気番」は、必ず垂直に取り付けてください。垂直以外の向きに取り付けると弁体が正常に作動しません。（図6）

2）配管工事終了後、排水管の満水試験を行う場合は、試験前に「通気番」の取り付けはしないでください。取り付けて満水試験を行うと、「通気番」に過大な圧力が働き、性能が低下する恐れがあります。
「通気番」の取り付けは満水試験後に行ってください。

3）接続は塩ビ管用接着剤を用いて、空気漏れのないように取り付けてください。

4）弁体にかかる負担を軽減させるため接続は、①先にソケットを配管に接続し、②次に通気番をソケットに接着してください。（図7）
「通気番」側に接着剤を塗布する場合は、「通気番」を垂直に立て、接着剤が内部に流入しないように十分注意して塗布してください。（図8）
逆さなどで塗布して接着剤が内部に流入すると、弁体が正常に作動しません。（図9）
また、はみ出た接着剤はウエス等で拭き取ってください。

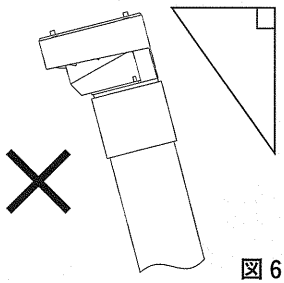

図6

（次ページに続く）

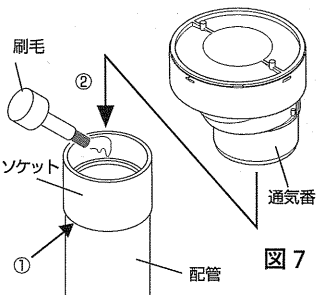

図7

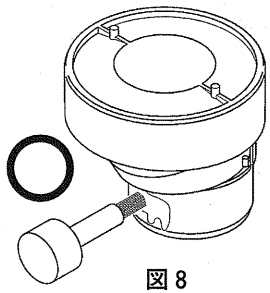

図8

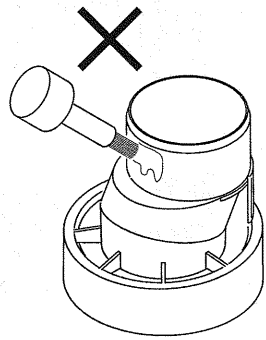

図9

5）塩ビ管に接続する場合は、付属の排水用塩ビソケットを使用してください。（図10）
鋳鉄管や鋼管に接続する場合は、市販の排水用バルブソケットを使用してください。（図11）

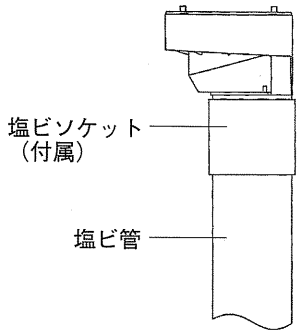

図10 塩ビ管の場合

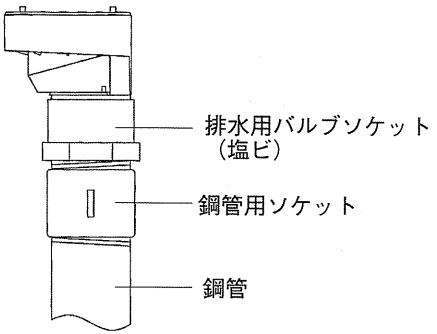

図11鋳鉄管・鋼管の場合

■取付け形態での注意点

1）伸頂通気管頂部に取付ける場合は、最上階における最高位の排水器具の最大あふれ縁から150mm以上の場所に取付けてください。（図13）
2）排水横枝管の通気管に取付ける場合は、その階における最高位の排水器具の最大あふれ縁から150mm以上の場所に取付けてください。（図13）
3）「通気番」を取付ける通気管を横走りさせる場合は、逆勾配にならないよう注意してください。逆勾配では水が通気管に溜まり、通気機能を損なう恐れがあります。（図13）
4）正圧緩和を目的とした通気管（逃がし通気管）には設置しないでください。通気弁は吐出機能がないので、排水管内の正圧を緩和することはできません。
5）「通気番」の点検・修理のために、あらかじめ天井との間に作業ができるような空間（100mm以上推奨）を確保してください。（図12）
6）「通気番」は、通気の流れ方向が一方向の通気管に設置してください。双方向となる通気ヘッダには設置しないでください。
7）その他、排水・通気管の配管システムは、給排水衛生設備規準に従ってください。誤ったシステムでは、通気弁本来の性能が発揮できない恐れがあります。

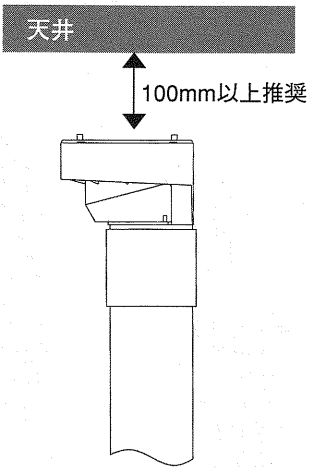

図12

■取扱い上の注意点

1）「通気番」は、ごみや埃が付かないような場所に保管するようにしてください。ジスク（ゴム部品）などに異物が付着すると、異臭が室内に漏れる恐れがあります。
2）出荷時に、通気弁のキャップのはめ合い部に貼り付けている封印テープは、使用者が安易に分解しないためのものですので、剥がさないでください。また、内部部品は、軽量化のため破損しやすいので、メンテナンスなどの際の取扱いには十分注意してください。

※本図は、「通気番」の取付け形態を説明するための図です。
排水システム全体の形態は、適切な表現ではありません。

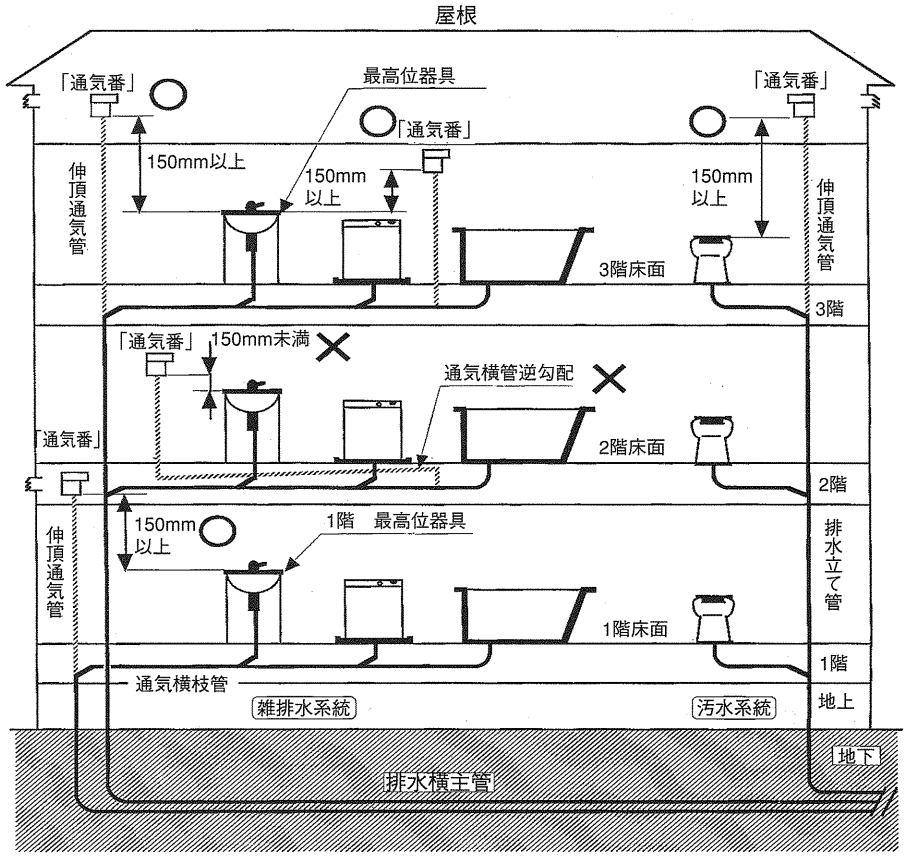

図13 排水用通気弁取付け形態説明図

■「通気番」の屋外使用

「通気番」は基本的に屋内に設置します。屋外へ設置した場合、ジスク（ゴム部分）などに異物が付着して、臭気漏れおよび本体、ジスクの劣化が増進されるため、屋内設置をおすすめします。

屋外に設置する場合は、「屋外用通気番」を使用してください。（図14）

なお、「通気番（屋内用）に屋外用カバーを後付けし、「屋外用通気番」として使用することはできません。」

①ABS樹脂（ボデー）であるため、直射日光や風雨にさらされるなどによる劣化を防止する工夫を行なってください。

※「屋外用通気番」には、アルミニウム製カバーが付属しています。

※「屋外用通気番」のボデーは、耐候性を配慮した材料を使用しています。

②冬期中の凍結防止のため、必ず保温処理を施してください。

※「屋外用通気番」には、発泡ポリスチレンの保温材が付属しています。上記以外の対策として、「通気番」を庇の下に設置するなどの方法により、耐久性を高めることができます。

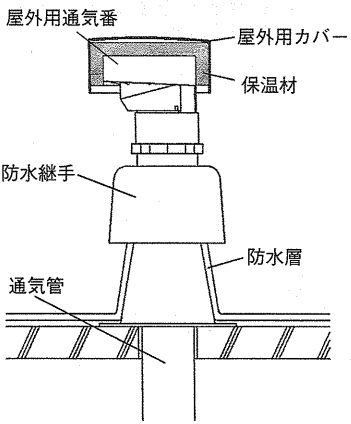

図14　屋外使用の一例

5 メンテナンス方法

「通気番」は、メンテナンスフリーを前提にしておりますが、万一故障が発生した場合に備えて、分解・点検ができるようになっています。
図15に示す部品構成を確認した上で、以下の手順に従って正しく行ってください。

【分解方法】
①角棒などを用いて、キャップ上面の突起部に引掛けて反時計回りに約10°回転（※）させます。（図16）
※本体が変形する可能性があるため過度に力を加えないでください。
②キャップ外周4ヵ所の凹部にマイナスドライバーなどの先端が平板形状の工具を差込み、テコのようにして軽く持ち上げ、キャップを取り外します。この時、キャップに弁体（ジスクとジスクホルダ）が付いて持ち上がりますので、注意してください。（図16）

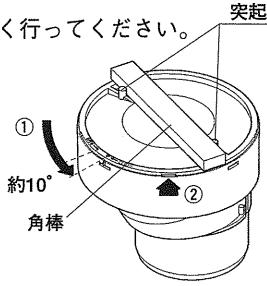

図16

【点検方法】
③ジスクおよびボデーに付着物等がないか確認します。
④ボデーに付着物が認められた場合は、ウエス等で拭き取ってください。
⑤ジスクに付着物が認められた場合は、ジスクホルダから外して水道水で洗浄してください。

【組立方法】
⑥ジスクをジスクホルダに取付け、ジスクホルダの『UP SIDE』を上になるようにして、キャップの軸に通します。（図17）

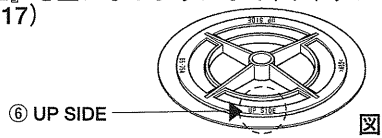

図17

⑦キャップの『▽』マークのある方向の外周凸部をボデーの『｜』マークのある凹部に合わせてキャップをボデーに、嵌め込みます。（図18）
⑧ 角棒などを用いて、キャップの『▽』マークが、ボデーの『｜』マークの位置になるように、時計回りに約10°回転（※）させます。（図19）
※本体が変形する可能性があるため過度に力を加えないでください。

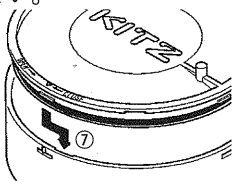

図18

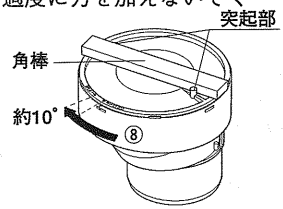

図19

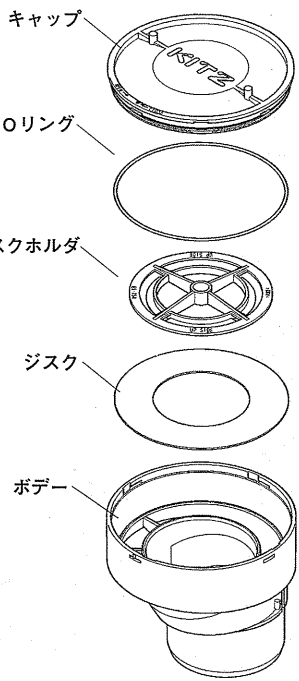

図15 部品構成

日本で最初にISO9001認証取得
KITZ
株式会社キッツ
本社 〒261-8577千葉市美浜区中瀬1-10-1
http://www.kitz.co.jp

北海道支店 ☎011-733-2225　大阪支社 ☎06-6541-1081
東北支店 ☎022-224-5335　中国支店 ☎082-248-5903
東京支社 ☎043-299-1705　九州支店 ☎092-431-7877
中部支社 ☎052-562-1541　給装営業部 ☎043-299-1760

1208